

2022年11月10日

川崎市上下水道事業管理者  
大澤 太郎 様

川崎工業振興倶楽部  
会長 越前 晃



## 要 望 書

平素は弊倶楽部への格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、工業用水道事業が開始された高度経済成長期以降、生産施設の海外移転による国内産業の空洞化、少子・高齢化に伴う国内市場の縮小、及び脱炭素社会に向けたエネルギー転換等、当初は予測し得なかったような事業環境変化が生じ、各事業者はさらなるコスト削減等が求められています。

このような状況に対し、本年7月29日に上下水道局より当倶楽部工業用水分科会第1回WG会議にて「工業用水道事業の施設更新及び料金制度のあり方に関する諮問」についてご説明をいただきました。川崎市が抱える3つの課題「主要施設の老朽化」「水需要の減少」「契約水量の乖離」に対し、「最適な施設規模を目指す施設更新のあり方」「持続的な経営基盤の確保を目指す料金制度のあり方」について検討いただいていると理解しておりますが、川崎工業振興倶楽部として、以下の2点につきましてご要望いたします。

- 「施設更新のあり方」については、今後川崎の地で事業を継続していくためのBCPの観点からも非常に重要であり、必要箇所への投資は継続的にお願いいたします。一方で、将来需要を考慮した最適な施設規模への見直しは中長期的コスト削減に寄与するものではありませんが、上述のように各事業者を取り巻く事業環境変化は今後ますます厳しさを増して行くと予想されることから、可能な限り早期のコストダウンに繋がる具体的施策の実現を期待致します。
- 「料金制度のあり方」の一案として「責任消費水量制」について制度の見直し等も検討いただいていると認識しております。昨年の調査（2次調査）において「負担金制度の導入」についてご説明をいただき、早期のコストダウンに繋がる具体的施策として期待致しますが、導入の可否を検討する上でも可能な限り早期にユーザー企業毎の具体的想定金額を提示いただきたく存じます。なお、金額次第では、経済活動を行う企業としては簡単に受容できないものとなりますので、ご配慮をお願い致します。

上下水道局におかれましては、日本初の公営工業用水事業として給水を開始いただいて以来、水源開発や再構築事業などを経て、工業都市川崎を支えていただき、改めて深く感謝申し上げます。事業を取り巻く環境の変化を踏まえ、川崎市上下水道事業経営審議委員会へ諮問する等、各種課題に真摯に取り組んでいただいているところかと思っておりますが、利用者が最大限にメリットを享受できるような措置をご検討いただきますよう、引き続きご高配のほどよろしくお願い申し上げます。